

| 1-1 建物概要 |                      | 1-2 外観 |                    |
|----------|----------------------|--------|--------------------|
| 建物名称     | (仮称)寒川学校給食センター       | 階数     | 地上3F               |
| 建設地      | 神奈川県高座郡寒川町宮山4018番 外  | 構造     | S造                 |
| 用途地域     | 準工業地域、準防火地域          | 平均居住人員 | 30 人               |
| 地域区分     | 6地域                  | 年間使用時間 | 1,600 時間/年(想定値)    |
| 建物用途     | 事務所,工場,              | 評価の段階  | 実施設計段階評価           |
| 竣工年      | 2023年3月 予定           | 評価の実施日 | 2021年3月19日         |
| 敷地面積     | 4,447 m <sup>2</sup> | 作成者    | 株式会社長大東京支社一級建築士事務所 |
| 建築面積     | 1,394 m <sup>2</sup> | 確認日    | 2021年3月26日         |
| 延床面積     | 3,508 m <sup>2</sup> | 確認者    | 株式会社長大東京支社一級建築士事務所 |



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 87% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 85%

④上記+ 85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 3.0**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.2**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

| 3 設計上の配慮事項  |  |   |
|---|--|---|
| <b>総合</b><br>調理食数4,400食の学校給食センター。調理フロアを2階に配置した重層型の工場。食材動線は清潔度の低い区域から高い区域へ流れる逆戻りのないワンウェイ動線とする。3階食育フロアや2階調理エリアをぐるっと1周できる屋外見学通路をつくり町民に開かれた施設とした。 |  | <b>その他</b>  |
| <b>Q1 室内環境</b><br>使用材料はすべて規制対象外 (JIS・JASのF☆☆☆☆) とした   | <b>Q2 サービス性能</b><br>維持管理を行ないやすくするため、床下配管ピットは地中梁下を潜り抜けることができるつくりとした | <b>Q3 室外環境(敷地内)</b><br>だれでも訪れることができる屋外見学通路をつくり地域に開いた施設とする |
| <b>LR1 エネルギー</b><br>BEIm=0.79とし建物外皮の熱負荷を抑制した  | <b>LR2 資源・マテリアル</b><br>調理員使用器具は自動水栓とし節水性を高めた                       | <b>LR3 敷地外環境</b><br>敷地内に配送トラックの転回・待機スペースを確保し交通負荷の抑制を行なった  |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される